

櫛引 唯治（くしびき・ただはる）

1、プロフィール

昭和20年歌誌『潮汐』主宰者鹿児島寿蔵に師事。潮汐短歌会青森支部代表、青森市短歌連盟会長、県歌人懇話会副会長等を歴任して青森県内外に大きな文化業績を遺した。

<生没>

1921(大正10)年9月3日～2003(平成15)年1月

<代表作>

歌集『柿の花』『わたすげ』『君子蘭』

<青森との関わり>

大正10年9月3日青森市北片岡164番地に、櫛引唯六の次男として生まれた。

2、作家解説

昭和18年から短歌を作っていた櫛引唯治が、本格的に作歌に励むようになったのは20年11月に、潮汐短歌会主宰鹿児島寿蔵に師事してからで、23年4月からは発起人代表として潮汐会青森県支部を結成、機関誌「青森潮汐」(月刊)創刊、編集責任者となる。また青森市短歌連盟副会長(49年)同会長(62年)、青森県歌人懇話会監事(59年)、同副会長(平成11年)に就任したほか、選者としては、東奥日報社主催青森県短歌大会(29年より)、東奥日報文芸欄「東奥歌壇」(31年より)、RABラジオ(40年)、県高等学校文化祭文芸部門短歌(55年より)、県歌人懇話会新人賞、短歌賞、功労賞(62年より)、青森市民文化祭短歌大会(62年より)、堤川はなしょうぶ祭短歌大会(63年より)、青函交流短歌大会(平成元年より)、県文化祭文芸コンクール(平成5年より)、産経新聞青森県歌壇(平成6年より)、青森市総合福祉センター短歌講座講師(平成11年より)、毎日新聞地

方版短歌(平成12年より)を担当して青森県歌壇を指導し、温厚な人柄とともに偉大な業績を遺した。

昭和14年に青森市の丸屋醸造株式会社に入社、同社の常務取締役、代表取締役会長を経て、57年3月に退職。現在、群緑短歌会青森支部長。56年に青森県芸術文化報奨受賞(潮汐会青森支部)。平成元年、青森市教育文化彰受賞。平成5年、青森県歌人功労賞受賞。平成12年、青森県芸術文化振興功労章受賞。

歌集『君子蘭』の歌

幾年を妻の培ひし君子蘭花さはにして貴(あて)に咲きたり

歌碑の歌

さやさやと川の流るる音のして朝しづかなり浅虫温泉街(平成10年5月浅虫温泉森林公園に建立)

3、資料紹介

○歌集『君子蘭』

図書

1999(平成11)年5月28日

187mm×122mm

第3歌集。鹿児島寿蔵氏に師事し、潮汐短歌会青森支部代表として活躍した櫛引唯治が平成4年から10年までの446首を収める。著者はあとがきで、「この歌集が、妻の一周忌の供養のために上梓することになるとは、夢想だにしなかった」と述べている。生前の妻が好きだった『君子蘭』を歌集名とした。